



高源寺/多賀町

県内景気

現在の景気 → 生産活動 → 個人消費 → 民間設備投資 → 住宅投資 → 公共投資 → 雇用情勢 → 3か月の景気

天気図

凡例 ☀️ 晴れ ☁️ 晴れ一時曇り ☁️ 曇り ☁️ 曇り一時雨 🌧️ 雨

前月比 ↑ 上昇・好転 ↓ 下降・悪化 ↔ 横ばい

回復に向けた動きが続いている

県内景気の動向

現状 県内製造業の生産活動の現状を鉱工業生産指数で見ると、はん用・生産用・業務用機械や窯業・土石製品などは上昇したものの、電気機械や輸送機械、プラスチック製品、食料品などが低下したため、原指数、季節調整済指数ともに2か月ぶりのマイナスとなり、この結果、季節調整済指数の3か月移動平均値も2か月ぶりに前月を下回り、弱含みで伸び悩んだ。

需要面では、百貨店・スーパー販売額については、「プレミアム付き商品券」の消費喚起効果が出ているものと考えられ、前月に続き全店ベース、既存店ベースともに飲食料品をはじめほとんどの品目で前年を上回り、全体に堅調な伸びとなった。また、乗用車の新車登録台数は2か月ぶりの微増となり、民間設備投資の指標である民間非居住用建築着工床面積は鉱工業用が高水準かつ大幅の増加、商業用とサービス業用も低水準ながら大幅に増加したため、全体では2か月連続の大幅増加、トラックの新車登録台数は4か月連続の二ケタ増で堅調に推移している。公共工事の請負件数は7か月連続で前年を大きく下回っているが、金額は2か月ぶりの大幅プラスとなった。一方、軽乗用車は軽自動車税増税の影響などが続き8か月連続のマイナスとなり、新設住宅着工戸数は持家が2か月ぶりのプラスとなったものの、貸家が2か月連続、分譲住宅も2か月ぶりのそれぞれ大幅の減少となったため、全体では2か月連続で減少している。このような中、雇用情勢をみると、新規求人倍率は前月に比べ低下したが、有効求人倍率は8か月連続の1倍超となっている。

これらの状況をまとめると、製造業の生産活動は一部の業種では堅調なものの、全体に弱含みで推移し伸び悩んだ。需要面では住宅投資や公共投資は一進一退ないし一服感がみられるが、個人消費と民間設備投資は前向きな動きがみられ、堅調に推移している。したがって県内景気の現状は、一部で弱含みの状態が続いているものの、全体に回復に向けた動きが続いていると考えられる。

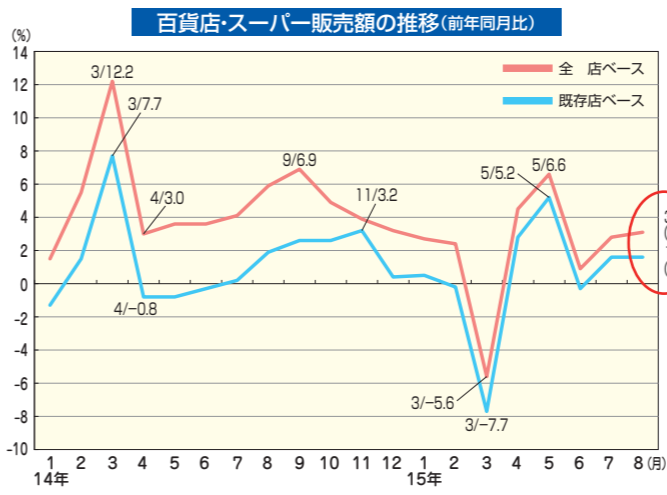
今後の動向 県内製造業の生産活動については、国内需要は景気の緩やかな回復基調を受けて徐々に回復に向かうものと思われるが、海外需要、とくに中国経済の減速が影響し、全体的に生産調整が長引き、一部では減産の可能性も懸念される。今後の動向を注視する必要がある。また、需要面では、個人消費については円安等による物価上昇などの影響はあるが、家計収入の増加、原油安や「プレミアム付き商品券」による消費マインドの良化などから、全体に底堅く推移するものと考えられ、民間設備投資や新設住宅着工などの投資関連では一部で慎重さが残るものの、前向きの動きがみられ、堅調に推移するものと思われるが、これも中国経済の動向いかんといった点が懸念材料として挙げられる。

したがって今後の県内景気は、弱含みの状態から回復に向けた状態に移行し、全体に底堅く推移するものと考えられるが、懸念材料として中国経済の動向を注視する必要がある。

「百貨店・スーパー販売額」は前月に続き両ベースともプラス

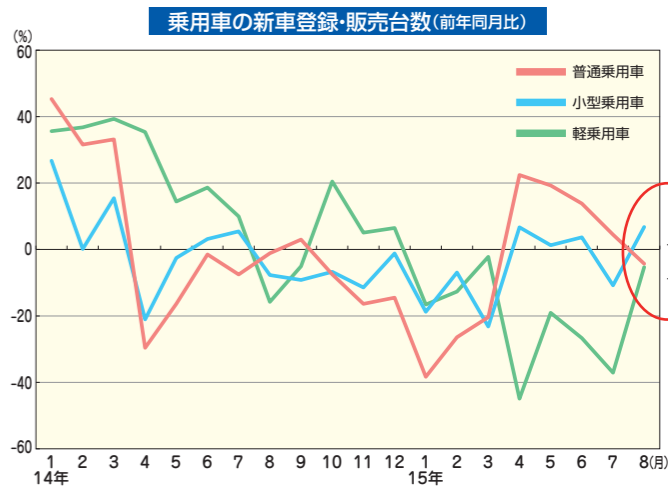
2015年8月の「消費者物価指数(生鮮食品を除く総合/大津市/2010年=100)」は103.8で、前年同月比+1.0%、前月比0.0%となり、前年比では28か月連続のプラスとなっている。これは、酒類やガス代、電気代、自動車等関係費などは前年比、前月比ともに低下したものの、油脂・調味料や菓子類、家庭用耐久財、家事雑貨、教養娯楽用品、同サービスなどで大幅に上昇したためとみられる。「可処分所得(大津市・勤労者世帯)」は9か月連続のプラスとなり(前年同月比+3.0%)、「家計消費支出(同)」も再び前年を大きく上回った(同+12.7%)。

このような所得・消費環境のなか、8月の「百貨店・スーパー販売額(全店ベース=店舗調整前、対象店舗数は96店舗)」は23,571百万円、前年比+3.1%で、5か月連続のプラスとなり、伸び率も前月を上回った。品目別にみると、ウエイトの高い「飲食料品」は27か月連続で増加していることに加え(同+3.3%)、家電機器が2か月連続で大幅に増加し(同+16.4%)、衣料品も3か月ぶりのプラス(同+1.4%)となった。また、「既存店ベース(=店舗調整後)」の売上高も飲食料品(同+1.6%)をはじめ、ほとんどの品目でプラスとなり、全体では2か月連続で前年を上回った(同+1.6%)。これは、県内各市町で発行している「プレミアム付き商品券」による消費喚起効果が出ているものと考えられる。



8月の「乗用車新車登録台数(登録ナンバー別)」をみると、「普通乗用車(3ナンバー車)」は5か月ぶりのマイナスとなったものの(1,230台、前年同月比-4.3%)、「小型乗用車(5ナンバー車)」が再び前年を上回ったため(1,138台、同+6.8%)、2車種合計では2か月ぶりの微増となった(2,368台、同+0.7%)。一方、「軽乗

用車」は8か月連続のマイナスとなっている(1,468台、同-5.3%)。これは、軽自動車税増税の影響とこれに伴う駆け込み需要の反動減によるものが続いているためとみられる。



「民間非居住用建築着工床面積」は前月に続き大幅のプラス

民間設備投資と関連の深い「民間非居住用建築着工床面積」(8月)は39,719㎡、前年同月比+77.5%で、前月に続き大幅のプラスとなった。業種別にみると、「鉱工業用」は高水準かつ大幅のプラスとなり、「商業用」と「サービス業用」も水準はさほど高くないものの大幅のプラスとなった(「鉱工業用」:24,027㎡、同+96.7%、「商業用」:7,973㎡、同+84.3%、「サービス業用」:7,719㎡、同+32.2%)。月々の季節変動を3か月移動平均で調整すると、7月は51,607㎡、同+54.6%で9か月ぶりの大幅プラスとなった。業種別に多い順に並べると、「鉱工業用」28,212㎡、同+120.6%、「サービス業用」13,567㎡、同+31.4%、「商業用」9,829㎡、同-4.2%。

